



2023 中銀カレンダー

児島虎次郎作

「和服を着たベルギーの少女」

1910(明治43)年制作 油彩・画布
高梁市成羽美術館 所蔵

平素は格別のお引立を賜わり、
まことにありがとうございます。

このたびは、2023年用カレンダーとして
児島虎次郎作「和服を着たベルギーの少女」を
お届け致します。

児島虎次郎作

「和服を着たベルギーの少女」

蒼い瞳が可愛い、和服を着た少女を描いた作品。瑞々しい白肌と色鮮やかな着物が、印象を引き立て合っている。本作は当館が所蔵する中で、児島のベルギー滞在期を代表する秀作である。

児島は1908年(明治41)に画家修業のため渡欧、翌年から画友の太田喜二郎の勧めでベルギー・ゲント美術アカデミーへ通いはじめ、校長ジャン・デルヴァンやベルギー印象派の代表的な画家エミール・クラウスより指導を受けるようになる。モデルが着ている和服は、児島が東京の金沢巖に依頼して取り寄せたものである。

一枚の絵画の中で様々な描写方法を試しており、やや立体感は薄いものの、各所はデッサン力のある児島らしく的確な稜線(形の変わり目)で捉え、手などはふっくらとして掴めそうである。肌の描き込みは細筆で何度も点描を重ねたような筆致であるのに対し、毛髪と和服はペインティングナイフで引っ掻いたような描写がされており、描かれたものそれぞれの質感の違いを感じさせる。

印象派が台頭したことで次々と開花し始めた新しい絵画思想—画家の主観性を重んじる絵画—を、この時期児島は熱心に取得しようとしている。

(高梁市成羽美術館 学芸員 吉尾 梨加)